

## 第1回 えどがわ BOXART展 作品一覧

作品番号.作品名	作者名
<b>1.心の影像</b>	高橋康征
無我夢中で作った作品です。自分の心を表現しました。楽しくもあり、満足した時間を過ごしました。	

<b>2.スカイ</b>	アッチャン
空を見上げて蝶の舞をコロナで頑張っている方に見てもらいたいです。	

<b>3.ライオンさんのお菓子やさん</b>	KANATSUKI
和紙やすき紙と厚紙で作った、半立体の作品を箱に詰め込んでみました。側面と月の部分が透けるようになっているので、デスクライトなどの下に置いて見ると、月が光り、店内に照明がついたように明るくなります。ついついのぞきこみたくなるような、かわいい作品になっていると思います。	

<b>4.冬の朝</b>	古川ひろえ
冬の朝の冷たさや、においを表現しました。手にとってかるく振ってみてください。葉っぱやビーズがふるえます。	
<b>5.たねのベット</b>	古川ひろえ
「ふうせんかざら」というつる性植物の種には、ハート型の模様があります。このかわいさを、他の方にも伝えたいと思い、この作品を作りました。（ペランダで育てて、とった種です）	

<b>6.ここで何をさがしているの？</b>	古川ひろえ
私の娘が、落ち葉の山を夢中になってかきまわし遊んでいたとき、何か宝物でも探しているようでした。その時の気持ちを思い出しながら作りました。	

<b>7.お花の自然な海</b>	古川はなこ
海に行きたいけど、行けないので行った気分になるために作りました。	

<b>8.立体墨彩画</b>	ハシちゃん
右を見ると桜、左を見るともみじ、正面は滝、下には舟や石、いろんな世界が箱の中で融合する事で違う世界を感じていただけたと思います。美しい安全な水、自然を子供、孫、その次の世代まで残せるよう私達は考えて暮らさなければと思っております。	
<b>9.いっしょに見よう、青の世界</b>	うみねこ
東京ビエンナーレのボランティアサポートを経験し、自分も制作してみたくなりました。美術に関して未経験だったので今まで積み重ねたもの（=時間・写真）を用いて表現することにしました。十数年分の膨大な量の写真から自分の好きな色「青」を取り出しています。（10面分切って貼ってが地味に苦しかったです）「あなたの知ってる青」もきっとあります。探してくれたら嬉しいです。	
<b>10.本当はね、だれでも飛べるんだよ！！</b>	夏色の雲
久しぶりの手作り。昔の作品等見返していたら、愛しさがあふれ、「自由につめ込んでみよう」と思った所からスタートです。カラのボックスをじっと見つめていたら想いがあふれて収集がつかなくなりました。(笑)そんな最高に楽しい時間から始まった私のボックス作り、どんどん自由になっていく私。あ〜あ 楽しかった！	

<b>11.『緊急速報です！』</b>	Hooi
温暖化が進み、北極の氷が溶けて、白クマが狭くなった氷の上で泣いています。これは、速報にするほどの緊急事態だと思い、BOXARTで表現してみました。箱を見て、すぐにTVだ！と思いました。	

<b>12.ふしぎな世界</b>	クラフトパンダ
小さな町をくふうしました。	

<b>13.そらとぶあしか</b>	大原百華
きいろのかいがらをもっているよ。	

<b>14.はなのせかい</b>	阪本花奈
6このまるがごだわりです。	

<b>15.ふしぎなかたち</b>	篠原凛
ねんどをちぎってできるかたちをたのしみました。	

<b>16.へや</b>	川島千佳
じっくり考えて作りました。茶色いカラーでまとめたのがポイントです。	

<b>17.あめがふるところ</b>	池田陽
はこの上にみずいろのねんどであめをつくったよ。	

<b>18.3つのいす</b>	細川千尋
きみどりいろのいすは何のためのいすでしょうか？	

<b>19.まるがいっぱい</b>	浅見柚奈
ねんどをたくさんまぜて、まるをいっぱいつくりました。	

<b>20.キャンプ</b>	小島洸志郎
まっかにもえるほのおでキャンプファイヤーをしているよ。	

<b>21.きょうりゅう</b>	しんじろう
アルゼンチノサウルスの親子と、それをおそおうとするティラノサウルス。空にはプテラノドンがとんでいます。	

作品番号.作品名	作者名
<b>22.マスクと一緒に蓋してしまえ！！</b>	金盛千恵子
マスクのストックが無くなり新しいものに交換する時に、この箱の中にコロナウイルスを閉じ込める、というアイデアが浮び応募してみようと思いました。BOXARTは初めてで立体での表現を考えるのに苦労しましたが、試行錯誤の末になんとか形にすることが出来ました。現在の状況が早く終息することを祈っています。	

<b>23.四つ葉のクローバーin宇宙DISCO</b>	津久井恵理子
犬の散歩中、地面から『見て見て！』と声が出ます。見ると四つ葉のクローバー。ちっちゃな幸せみ〜つけた！あれ？次の日も次の日も、あちこちで見つかるよ。五つ葉も！超能力？それとも宇宙人の仕業かな？それなら一緒に宇宙DISCOパーティーを開いちゃおう・・・地上（四つ葉のクローバー）と宇宙（自作イラスト）のコラボ作品です。鏡を覗くと四つ葉の裏の色んな顔が見えます。ぜひパーティーに参加してちっちゃな幸せを見つけてみてください。	

<b>24.十人十色+自然と共生＝創成ニュータウン</b>	津久井広樹
・透明な壁で箱の中の住民は他者を受け入れやすい。・自分が外と常につながっていてOPEN。・クリーン太陽エネルギー円盤発電。・土から家や都市が育つ〜自然再生の街。・全てリサイクル、サステナブル、海や空気を汚さない。・種子はタンポポのように、フワフワと飛んで他の文化と交わる。・SDGsとInclusionの二つの表現に悩んだ。	

<b>25.森の中のベンチ</b>	ななは
自然の中でゆっくりと過ごしたい。	

<b>26.宇宙の虹</b>	ままは
作品に天地左右の決まりはありません。見る角度によって万華鏡のように見える形が変わります。箱を手にとって鑑賞してください。海洋資源の回復、持続可能な世界への推移。希望に満ちた明るい未来2030年をめざして。	

<b>27.いえ</b>	たっちゃん
小5（10才）の自閉症です。話すことはできませんが、工作（絵をかくこと、はさみ、のり…）が好きです。家で過ごす事が多くなった今、箱の中に、たっちゃんの好きを表現してます。鹿本学園5年	

<b>28.こびと達の大会議</b>	7人のこびと
おやおや？なにやらこびと達が会議をしているようです。どうやら2100年の江戸川区の姿について話し合っているみたい。私は江戸川区で産まれ育ちました。自粛期間中には、新川の桜や子がも、公園では小鳥のさえずりやハーブの香りに癒されました。こんなに素敵な「まちづくり」をしている人達の頭の中ってどんなかな？と想像しながら制作しました。虹のように希望に満ちたまちがずっと続くよう、こびと達の会議に参加しましょう！	
<b>29.Ceasefire（停戦）</b>	せいぞう・石根
停戦だ　砲弾の音が止んだ　銃の音もしない　周りは草原じゃないか　花が咲いている　まるで印象派の絵画みたいだ　僕は何故戦っているんだろう	

<b>30.パラレルワールド</b>	せいぞう・石根
便利になった世界と並行して、それを歓迎しない世界が存在しています。視野を広お〜くとして、様々な立場から世界を観察できたらいいね。きっと素敵なワールドになるよ。	

<b>31.「ハロ〜！お魚さん！」</b>	はしもと
誰でも参加できるイベントに興味があり、制作をしました。小さな箱で、青かった為、何にしようか考えた所、葛西臨海公園の魚が思い浮かびました。泳いでるように糸を吊るしてみました。又、画用紙だけで表現は、面白くないので、様々な素材を使用し、海の豊かさを出してみました。ナポレオン・フィッシュが、お気に入りです。	

<b>32.IMAGINE</b>	イタイサチコ
空と海の箱の中に走る銀色の糸は、雨であり、星であり、航空機の軌跡であり、国境であり、電波であり、見えないネットかも知れません。どの物体も事象も、良いこと、良くないことがあって、それは、見る人によって異なるものです。どうぞ お好きに見ていただければと思います。	

<b>33.一匹オオカミ</b>	空
ボックスアートをはじめてやりました。とてもむずかしかったです。オオカミがうまくできました。	

<b>34.夜空</b>	Chisato
自分の中で夜空と城のテーマのようなものがあったので制作しました。ビーズは小さいので根気のいる作業でしたがやってみたかったことを実現できました。	

<b>35.私だけの宇宙空間</b>	並松花
この作品は、宇宙をテーマにしていて、宇宙の中に家があるのではなく、家の中に宇宙があるのを表しました。しずんでいくゆう日の形をイメージしたまどのおくに、宇宙空間が広がっていて、太陽や地球、月があります。それぞれちがった光をはなつ星は、私の楽しい、うれしい、悲しい色々な気持ちを表しています。	

<b>36.秘めた言葉</b>	尾寄ひとみ
聞こえにくい声質を持っていて、おまけに口下手である、という自分のコンプレックスを表現した。言葉にしたいくてもできない感情、伝わらない言葉。日々感じているもどかしさを、音の聞こえにくい水の中をイメージして制作した。	

<b>37.秘密基地</b>	藤田奈美
ごちゃごちゃとした建造物や機械など、好きなものだけを詰め込みました。中に貼ってある写真も自分で撮影・加工したものです。壁や床に鏡を貼り、箱を見る人が映るようにしました。見ている人も作品の一部であり、誰かに見ってもらうことで、初めてこの箱は完成します。「他者と自分」をテーマに作りました。	

<b>38.あきのおさんぼ</b>	むとうはな
かぞくみんなであきのおさんぼをしているところです。いちょうやもみじのはっぱをはさみでたくさんきるのが、たいへんだったけれど、たのしかったです。ほんとうはいぬは、かっていません。おせわができませんからです。でも、どうしてもかいたいので、ばばがていねんになってひまになったら、かってもらうやくそくです。	

<b>39.ひまわりのおもいで</b>	武藤希実
「ひまわりのおもいで」は、初めて人前で弾いた曲です。その時の気持ちを作品にしました。ピアノは、古いマウスを黒くぬってから、針で削って作りました。大きなひまわりの中心は、こわれたテープホルダーを使っています。はめこんだところを後ろから見ると、バラ窓のように見えたので、教会のイメージを重ねました。	

<b>40.色の波に乗る</b>	井上彩花
絵の具、ペン、シール、たくさんの色を並べることに興味がありすべて並べては試し描きをして。そんな時間が大好きなようです。個別の色と色は1列に並ぶと、まるで繋がり合っているかのようで、その流れを大切にする過程は、いつも色の波に身を任せているようだと感じます。	

<b>41.色の波を掬う</b>	井上彩花
最初はこの色、次はこの色、その次はこの色。色を順番に選択して、一つ一つ糊の海に落としていきました。波に揺られて混ざり合った色を掬い取り、定着しています。彼女の"好き"な瞬間が選び取る順番やタイミングは、心地良い色の渦を生み出してくれます。	

<b>42.塗るということ1－原色</b>	大瀬賢真
普段から塗るということに真っ直ぐ丁寧に取り組んでいます。どれも隙間なく塗りつぶされて終わりとなりますが、塗り切ること自体を目的としているわけではないようです。一塗りー塗り、塗るという行為を積み重ねていく時間そのものが、彼にとっては一番重要なように思います。	

作品番号.作品名	作者名
<b>43.塗るといこと2 −混色</b>	大瀬賢真

普段から、塗るといことに真っ直ぐ丁寧に取り組んでいます。混ざり合う色も御構い無なしに受け入れて、それさえも楽しんでひたすらに塗っていきます。“塗る”というそれだけの時間の貴重さ、贅沢さを知った上で、いつも存分に満喫しているように感じます。

<b>44.色屏風</b>	関根元太
大きなキャンバスいっぱい、勢いよく描いていきます。がむしゃらに塗りたいかと思うと、時折遠くから眺めては何度も何度も手直しをして、納得がいくまで塗り込む姿は職人のようです。段ボールを広げた状態で立てて眺めると、色の勢いに圧倒され、威厳さえ感じる屏風のようなのです。	
<b>45.所作のテーピング</b>	吉岡愛実

彼女の制作には、ペンを走らせる、テープを引っ張るといった何気ない行為が、儚くも強い意志を持って行われていることに気づかされます。小さな所作一つ一つの過程を、時が止まったようにこの箱に表しているので、所作を想像しながら、細部までじっくりご覧いただけたら幸いです。

<b>46.カメラ目線</b>	亀山貴稀
写真を撮ることが好きで、いつも身近な人の写真を撮ります。撮った写真をコピー機に並べて、たくさん複製もしました。撮影する度に、1枚印刷する度に、「みてみてー！」とみんなを呼びます。他者をよく観察する目。たくさんの人に見てもらいたい目です。	
<b>47.ばくはつ！</b>	亀山貴稀

塗り終えた箱を掲げながら、「ばくはつ！」と何度も教えてくれました。使う色も塗る場所にもこだわり抜いて、これが「ばくはつ！」と。イメージの中にある「ばくはつ！」を、とても素直に表現してくれたように感じます。1点だけのシールにも何か意味があるようです。

<b>48.どこでもドラ</b>	佐久間献
作ることはまだそんなに興味をもてないけれど、友達とすごす時間と、ドラえもんは大好き。だからたくさん貼りました。折れ目のところの後ろ向きドラえもんがチャームポイントです。日々の生活には、やりたくないことも、苦手なことも色々あるけれど、これさえ持っていればいつでもどこでもドラえもん！	

<b>49.おはなしの塗り方</b>	張原佑太郎
好きな人たちと、一緒に会話する中で制作しました。お話しと塗ることは並行して行われていきます。会話が盛り上がると筆の進みも軽やかになって、まるでお話しに色を塗っているよう。会話のやり取りで言葉が重なっていくように、塗りと塗りのコミュニケーションで色も連なって、重なっていきます。	

<b>50.ぼくとあなた</b>	藤田一輝
細めのペンを持つと、細部までの丁寧な描き込みに驚かされます。絵の具になると大胆に、体を使って大きな動き。画材によって特徴を変える彼の姿ですが、どちらも描くことが好きだという気持ちが溢れています。彼の絵にはしばしば彼が登場します。右の眼鏡が彼、隣はいったい誰でしょう？	

<b>51.モダーン　バックンチョ</b>	藤田一輝
太めの油性ペンで一気に仕上げました。ペンを使いこなす為に、立ち上がり気合いを入れて。描き込みは終わる様子はなく、時間が許せばいつまでだって描いていたいとい、終わりを渋っていました。ずーっと描いていいよと言ったら、どんな仕上がりになったのか、少し気になるところです。	

<b>52.飛び出せ！ニャンコ祭り！</b>	朝井陽詠
今、一番好きなゲームのキャラクター。次から次へといろんなタイプのニャンコが、彼の持つペンから飛び出て止まらない！！作っている過程がまさにお祭り状態でした。右上のゆらゆらしているマークは、ニャンコが死んだ時に出る魂だそうで、彼が一番気に入って大切にしていました。	

<b>53.提供TV</b>	田井輝
テレビの、提供が流れるシーンに心奪われています。「この番組は〇〇の提供でお送りいたしました。」このセリフを口ずさみながら、描いていきます。スポンサーは様々。たくさん並んだ提供画面を見て、提供ばかりが流れるTVがあったなら、彼は画面に噛りついて観るのかなぁ、と想像してみました。	

<b>54.ビックリひらひら箱</b>	田井輝
とにかくひらひらするものが大好きです。リボンやテープ、隙あらばひらひら。でも、一番はシュレッダーにかけた色紙です。ふわっと投げてひらひらと落ちてくる様子を釘付け。綺麗なものを見ているときの彼の方が、輝やいている！と感じます。たくさん投げて見惚れた分を回収して、箱に詰めこみました。	

<b>55.オーディオコレクション−ONKYO d012extに憧れて</b>	塚野大暁
ONKYOのオーディオを買うことを夢見ています。すぐに手に入れることは叶わない為、パソコンで検索しては画像を眺める日々。好きなオーディオの画像をたくさん印刷しては、寝る時にも紙束を抱きかかえて離さないそう。箱の上部はこれまでに印刷した画像の複製、下部はこれからも増えていくであろう印刷分の白紙コピー用紙です。	

<b>56.パーティーのあとに</b>	島木望乃
土台の箱に手形や足形を付けたり、全体をラップでぐるぐる巻きにしたり、様々な過程があってこの形にたどり着きました。好奇心のままに挑戦を楽しんでいて、1箱の中で遊び尽くした彼女からは、やり切った感が伝わってきました。中心には象徴的なストローが1本。ぜひ細部までじっくりご覧ください。	

<b>57.ユーモア。私の世界</b>	渡邊怜亜
頭の中のイメージに、素材から得た閃きが加わって、世界はどんどん広がっていきました。大きな旗の中には伸びる棒が！彼女のユーモアの世界は、ラッピングで隠された見えない部分にもたくさんつまっています。覗き込んで想像しながら、ユーモアを楽しんでいただけたら幸いです。	

<b>58.ある日のサーカス</b>	小林大悟
昔みたサーカスの体験から想像を膨らませて、箱の中に閉じこめました。	

<b>59.eternalrose</b>	烏山茜
あきばれのあまがさ　つきささるこえ　ぎりぎりのようみやく　10ねんごにまた、さいたばら。	

<b>60.猫の癒し</b>	セラビア
私は猫を飼えません。医療関係の仕事で、コロナ感染症で心と身体が疲れきっている中、窓際に猫がこちらを見ていました。とっっても癒されたので、猫のイメージで作りました。触ってみたいと思えるように作ったのですが、猫に見えなければ、皆様の思うようにご自由で大丈夫です。	

<b>61.猫ふくろう</b>	団子
猫を作っていましたが、途中からふくろうにも見えてきました。苦労したことは、ダンボールの型からどのように猫にしていくな、毛糸をどうしたら良いか考え、ただ巻いて表現してみました。イメージが伝わるように、肉球を表現しました。空に浮くようにビーズでとめてビルの上にいるようにイメージしました。	

<b>62.不思議なお花畑</b>	わかな
一番頑張ったのはお花をグルーガンでくっつけるところです。お花をいっぱいつけたので手が疲れました。真ん中の一番大きな花が不思議な花です。	

<b>63.#1 冬.Usagi</b>	りん太
冬の到来を喜ぶUsagi。喜び舞うと冬の花が咲きました。・段ボールの内側の凸凹の部分を使用しました。段ボールの平らな部分を剥がし、きれいに凸凹だけ残すのが大変な作業でした。集中して、ものづくりが出来てとても楽しかったです。これを機会に、アート制作を楽しみたいと思います。	

<b>作品番号.作品名</b>	<b>作者名</b>
<b>64.「まめねこ富士山」</b>	やまぎきじんこ
ミニチュア陶器の作家をしています。オリジナルキャラクターの「まめねこ」でBOXARTを制作してみたいと考えました。透明な箱は「自分の世界」、富士山は「目標」や「乗り越えたい困難なこと」をイメージしています。日々の暮らしの中で小さな目標を達成したり、ちょっとした難題を乗り越えた時のうれしい気持ちを表現しました。どんなに小さな世界でも小さな幸せがあります。ご覧になられた方が元氣になりますように。	
<b>65.ミニチュア「まめねこ富士山」</b>	やまぎきじんこ

「まめねこ富士山」のミニチュア版です。どこまで小さく作れるか限界に挑戦しました。細かい所まで見られるよう虫めがねを添えます。	
--	--

<b>66.Playful</b>	Strawberry latte
この作品は、上下逆さまにして楽しんでいただくことができます。奥にある島は回すことができて、星を上にしても、島を上にしても逆にはなりません。そして糸でつりあげているものは、下側の時に箱の外にだしてぶらさげることもできます。また、スマホなどのライト機能で箱の中を照らすとまた面白い物がみれます。この作品は遊び心からできた作品です。	
<b>67.「ライオン」のひげ</b>	Anna
・動物園へ行くのが大好き　ライオンを作ってみました！・いつも田舎のおばあちゃんから果物が届く時、ダンボールの箱をくるんでいる「ヒモ」があり捨てるのもったいない。「そうだ！！」「ライオン作ってヒゲ、モシヤモシヤ（笑）！！」	
<b>68.レインボー（にじ）</b>	Anna
とうもろこし素材のポップなカラフル素材、水を少しぬらすだけでくっついて、とても楽しい。集中して、コツコツ、お花を作ってみました。「虹が、7色きれいかなァ」・・・とレインボーも 作ってみました。	
<b>69.「どんぐりちゃん」</b>	Anna

家の近所の公園で、どんぐり、まつぼっくり等、いつも拾っては、何作ろうと・・・お花、いっぱい、ふくろうも 作ってみました。

<b>70.ともだち</b>	とり
小さな箱の中に広い空間が見えるように、箱の奥に鏡を貼って手前のものがうつるようにしました。暗く見えづらくなってしまったのが心残りです。箱の中にものを入れると、閉じこめてしまったようでかわいそうに思うので、少しでも広くて居心地の良い森にしようと頑張りました。	

<b>71.なでなで花</b>	ぶにぶに子
小さい頃、お母さんの二の腕が好きだった。やわらかくてスベスベしていてちょっと冷たい。でもこのご時世、人に触るのも気を遣う。だから箱の中にあの幸せの触感を再現してみた。指でツツツするのも手の平でなでなでするのもよし。なんならひっぱりあげて頬ずりだってできるんです。事後の手指消毒はお忘れなく。	

<b>72.虫がいっぱい！虫の世界</b>	榊原孔馬
とんでいる虫のつらしている糸の長さをそれぞれちがう長さにしました。とんぼの体をめんぼうでやろうとしたけど、わりばしを切って、体にしました。	

<b>73.うちゅう</b>	落瑞稀
大きなちきゅうをつくるのをがんばりました。ブランコでんきゅうをつけたのがこだわりです。	

<b>74.森の友だち</b>	小島満帆子
わたしが、がんばったところは、山の形をそうぞうして作りました。わたしが、きれいな色だと思ったところは、川の色です。白と水色で作りました。わたしが、とくにおすすめのところは、ねこと、ねこが、あそんでいるところです。ねこの形を考えて作りました。	
<b>75.オバケのハロウィンパーティー</b>	宇田川暖乃香

オバケの目とか口・木・オバケのかたち・クモのす・かぼちゃのかたち・オバケの色をこだわりました。

<b>76.繋ぐ</b>	南里梨絵
手をモチーフにしています。幼い息子には「ぞうさん」と呼ばれます。大きな手、小さな手、いろんな型があるけど、みなさんには手にみえますか？ぞうさんにみえますか？	

<b>77.とさうちきこち</b>	南里梨絵
コロナで会えない2歳の息子と田舎のおじいちゃんおばあちゃんが手を繋いで遊ぶ姿をイメージしました。着なくなった着物を使っています。上下、前後のない作品です。好きな向きに置くと、ちょっとだけ作品の様子が変化するので、ぜひ触って下さい。	

<b>78.Ocean</b>	Sally-U
今年の夏私は海の中にいました。それは六本木で開かれたある展覧会会場でした。その感動的な思い出を小さな箱に表現したいと思い作成しました。海辺で育ち海好きな自分も箱の中に入れるために大好きなキラキラしたものを入れました。クジラは私で愛犬二匹も一緒です。出来あがったらなんだか可愛い感じで戸惑っています。	

<b>79.葉っぱのうちゅう</b>	森亭木林
葉っぱがきれいだったので葉っぱのうちゅうをつくりました。さいしょ糸で葉っぱをつろうとは、思いませんでした。ですが、おもしろいと思いつるしてみました。そこがたいへんだったので見てください。	

<b>80.美術館の階段</b>	sanaeigo
東京国立博物館に行った時、階段がきれいだなあ、と思っていました。作り始めて、イメージ通りにダンボールをあつかう事ができず、なかなか進める事が出来ませんでした。一番、難しいと感じたことは、美術館の静けさ、おちついた雰囲気になるかどうかということです。	

<b>81.チューリップとうめと家族の公園の日</b>	うめか
パパとママとうめと妹で　おさんぼしながら　チューリップの公園に行って　すべり台であそんだ	

<b>82.Tree is life</b>	さきえ
人生は木。咲かずも枯らすも自由。	

<b>83.自然と私</b>	イヴ
いつも自然をみることで疲れた心や時には病みそうになる心が救われます。しかしあまりにも疲れてしまうとその自然をうけ入れる余裕さえなくなることもあります。いつも自然に抱かれて、エネルギーをもらいたいと思います。また現代社会では自然を身近に感じることも難しいことが多く悲しいです。	